

事務 事業名	コード1	29000	道路維持管理費	課	建設課		
	コード2			所属班	管理班		
			☐ 主要事業	電話番号	57-1191	内線	
施策 体系	基本方針	1	安全で魅力のあるまちづくり	予算	会計		款 項 目
	施策	2	道路・公共交通網の整備	科目	一般会計		8 2 2
	施策の展開	4	市道の整備	根拠	道路法、旭市法定外公共物管理条例		
	基本事業	18	市道の維持管理	法令			

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成__年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成__年度～ 平成__年度まで ※全体像を記述→	●認定市道及び法定外公共物において、道路排水路清掃、街路樹の維持管理等、道路に関する委託事業と作業員を常備することにより道路補修等、住民の要望に速やかに対応する。 【課員】道路排水路の日常的な管理業務 【作業員】主に道路の整地、草刈り、側溝清掃 【委託業務】市道植込(ツツジ、桜)保守、街路樹の維持管理、草刈り 【作業員】常時5人(繁忙期のみさらに4人) 【業務の流れ】 ①道路排水路の日常的な管理業務 ①住民からの要望・苦情の連絡受付→②現地確認→③作業員で道路補修等実施 又は ③土木工事委託

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.賃金	14,456
2.需用費	11,504
3.委託料	7,050
4.原材料費	8,779
5.その他	4,198
【前年度比増減理由】24年度は緊急雇用事業で一部費用を支出したため	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
(道路維持管理費÷建設課土木費)×人員	
道路排水路の日常的な管理業務: 630時間	
住民からの要望・苦情対応: 1,400時間	

事業費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.賃金	千円	9,456	9,699	14,456	15,549
2.需用費	千円	8,223	8,683	11,504	12,653
3.委託料	千円	5,688	6,846	7,050	27,000
4.原材料費	千円	9,335	8,412	8,779	10,000
5.その他	千円	4,263	4,198	4,198	5,293
事業費計(A)	千円	36,965	37,838	45,987	70,495
うち一般財源	千円	36,965	37,838	45,987	59,495
正規職員従事人数	人	1.01	1.00	1.01	1.02
延べ業務時間	時間	2,030	2,020	2,030	2,050
人件費計(B)	千円	7,714	7,676	7,714	7,790
トータルコスト(A)+(B)	千円	44,679	45,514	53,701	78,285

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 道路排水路等清掃委託 道路維持管理 26年度計画(26年度に計画している主な活動) 道路排水路等清掃委託 道路維持管理 道路ストック総点検委託	ア 道路の定期草刈り箇所数(委託実施)	箇所	20	22	23	25
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 市道植込保守及び街路樹維持管理業務件数(委託分)	件	2	2	2	2
	ア 市道 イ 利用者(市民) ウ 街路樹	ウ 作業員による道路補修等	件	1,180	1,280	1,320	1,400
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	ア 安全性の向上 イ 安心して通行できる ウ 景観が保全される	ア 維持補修対象道路延長(認定市道延長)	km	1,105	1,090	1,094	1,096
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 人口(4月1日現在)	人	69,749	69,223	68,725	68,241
	安全で円滑な交通の確保	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
上位目的		ア 整備済み道路延長(舗装道) (住民が安全に利用できる道路と感ずる件数)	km	769	773	776	778
		イ 道路維持管理に起因する車両事故件数	件	6	1	5	5
上位目的		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
		ア 舗装率(1・2級)	%	95.7	99.0	99.0	99.0
		イ 舗装率(その他)	%	63.4	63.4	63.5	63.5

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
車社会の到来により、舗装道路における破損の進行が著しく、破損箇所が起因となる交通事故、2次災害防止の目的及び排水路維持管理のため	・大型ダンプ等の通行により市道・農道の舗装の傷みが激しい。また、大雨による道路の冠水が発生している。 ・笹子トンネルの事故を契機として公共物をより適切に管理することが求められており、国の方針によって総合管理計画を28年度までに策定する必要がある。	住民から道路舗装の陥没及び穴の補修の要望がある。また、農業用排水路について、家庭雑排水を放流している関係上、地元の生産組合管理の排水路等に堆積土があり流れが悪く、大雨が降ると道路が冠水するケースが発生しており、住民から苦情がある。

事務事業名	道路維持管理費	課名	建設課	班名	管理班
-------	---------	----	-----	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市民が安全に道路を通行できることは、市民が安全に生活することにつながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 市民等の利用者に安全に道路を通行してもらうため、必要な維持管理を実施する事業であり、対象・意図ともに適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 生活の基盤である市道の維持管理は、道路管理者として市の責任である。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 現状では、住民個々の要望全てには対応できておらず、住民が満足いく状況には至っていない。道路維持管理に起因する車両事故も0ではない。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 維持管理を行う認定市道延長や法定外公共物の延長は非常に長い時間、予算や人員を増やしても全ての住民個々の要望全てに対応できる訳ではない。地域で実施可能な維持管理を行ってもらうなどの取り組みによって、成果は向上する。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業なし ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状でも事業費が不足しており、場合によって要望等の対応が後年度へ先送りになっている状況もあるため、削減余地はない。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業量に対し人員が不足している現在の状況では削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市道は市民誰もが利用できるものであるため、公平である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	維持管理を行う認定市道延長や法定外公共物の延長は非常に長い時間、予算や人員を増やしても全ての住民個々の要望全てに対応できる訳ではない。地域で実施可能な維持管理を行ってもらうなどの取り組みを検討する必要がある。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化																							
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																							
いつまでに	なにを、どうするのか？																						
①次期総合計画策定に合わせ検討 ②継続実施		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上			○																			
	維持																						
	低下																						
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							
①共助の意識に基づくボランティア精神での維持管理を地域で行うよう住民の意識改革が必要。																							
②ホームページや広報等で広く市民等からの通報をお願いする。																							